

# 2年間での後発医薬品調剤率の変化と 60%達成への取り組みと課題について

(株) 関西メディコ サン薬局  
安田 光

## 今回の取り組みの目的

厚生労働省は「**2018年3月末までに、後発医薬品の数量シェアを60%以上にする**」という目的を掲げ積極的に施策に取り組んでいる。

同様の研究を行った2012年から2年間での後発医薬品調剤率の変化を調査し、目標である**60%以上への達成状況を確認**する。

2014年4月以降の**後発医薬品使用促進の取り組みの効果と今後の課題を把握**し、どう取り組んでいけば良いか考察を行う。

## 今回の取り組みの方法

対象 : 全店舗 (2012年52店舗→2014年54店舗)

対象期間 : 2012年2~4月 (3ヶ月間)  
2014年2~4月 (3ヶ月間)

調査方法 : 期間内に処方があった薬剤使用量を総計し、規格・成分別に集計。  
使用量上位30品目を対象に各成分の使用量及び後発品への変更率を算出し、各期間の変更率を比較する。  
(ただし、経腸成分栄養剤、生薬・漢方製剤、先発品が存在しない製剤は除く)

計算単位 : 薬価収載されている薬価単位で計算

# 結果①：成分別薬剤使用量上位30品目（2014年2～4月） その1

	成分	規格 (普通錠・OD 錠含む)	主に使用されている薬	後発品 の有無	後発品変更率	
					2012年	2014年
1	レバミピド	100mg	ムコスタ	○	18.94%	60.57%
2	アムロジピンベシル酸塩	5mg	アムロジン・ノルバスク	○	25.04%	64.68%
3	ケトプロフェン	10×14cm	モーラステープL40mg	○	3.96%	22.77%
4	ウルソデオキシコール酸	100mg	ウルソ	○	9.79%	45.91%
5	フェキソフェナジン塩酸塩	60mg	アレグラ	○	—	66.68%
6	リマプロストアルファデクス	5μg	オパルモン・プロレナール	○	18.44%	62.49%
7	メトホルミン塩酸塩	250mg	メトグルコ	△	28.88%	0%
8	カルボシステイン	mL	ムコダインシロップ	○	16.45%	16.55%
9	ロキソプロフェンNa	60mg	ロキソニン	○	13.31%	50.89%
10	センノシド	12mg	プルゼニド	○	44.31%	48.74%

# 結果①：成分別薬剤使用量上位30品目（2014年2～4月） その2

	成分	規格 (普通錠・OD錠含む)	主に使用されている薬	後発品の有無	後発品変更率	
					2012年	2014年
11	エチゾラム	0.5mg	デパス	○	12.71%	38.47%
12	ロスバスタチンCa	2.5mg	クレストール	×	—	—
13	テプレノン	50mg	セルベックス	○	12.67%	40.48%
14	ファモチジン	20mg	ガスター	○	19.96%	60.39%
15	ワルファリンカリウム	1mg	ワーファリン	○	0%	0%
16	モサプリドクエン酸塩	5mg	ガスモチン	○	—	47.93%
17	カルボシステイン	250mg	ムコダイン	○	9.22%	66.81%
18	オロパタジン塩酸塩	5mg	アレロック	○	—	61.18%
19	ケトプロフェン	7×10cm	モーラステープ	○	3.96%	15.35%
20	カルボシステイン	500mg	ムコダイン	○	9.22%	50.69%

# 結果①：成分別薬剤使用量上位30品目（2014年2～4月） その3

	成分	規格 (普通錠・OD錠含む)	主に使用されている薬	後発品の有無	後発品変更率	
					2012年	2014年
21	ニコランジル	5mg	シグマート	○	55.36%	72.96%
22	ランソプラゾール	15mg錠	タケプロン	○	35.60%	56.54%
23	プラニルカスト水和物	112.5mgC	オノン	○	23.73%	60.79%
24	ヘパリン類似物質軟膏	g	ヒルドイドソフト	○	0.83%	7.97%
25	アロプリノール	100mg	ザイロリック	○	44.94%	71.93%
26	ファモチジン	10mg	ガスター	○	19.96%	68.38%
27	グリメピリド	1mg	アマリール	○	23.99%	62.33%
28	アトルバスタチンCa	10mg	リピトール	○	17.66%	61.43%
29	ベポタスチンベシル酸塩	10mg	タリオン	×	—	—
30	アムロジピンベシル酸塩	2.5mg	アムロジン・ノルバスク	○	25.04%	59.38%

## 結果① まとめ

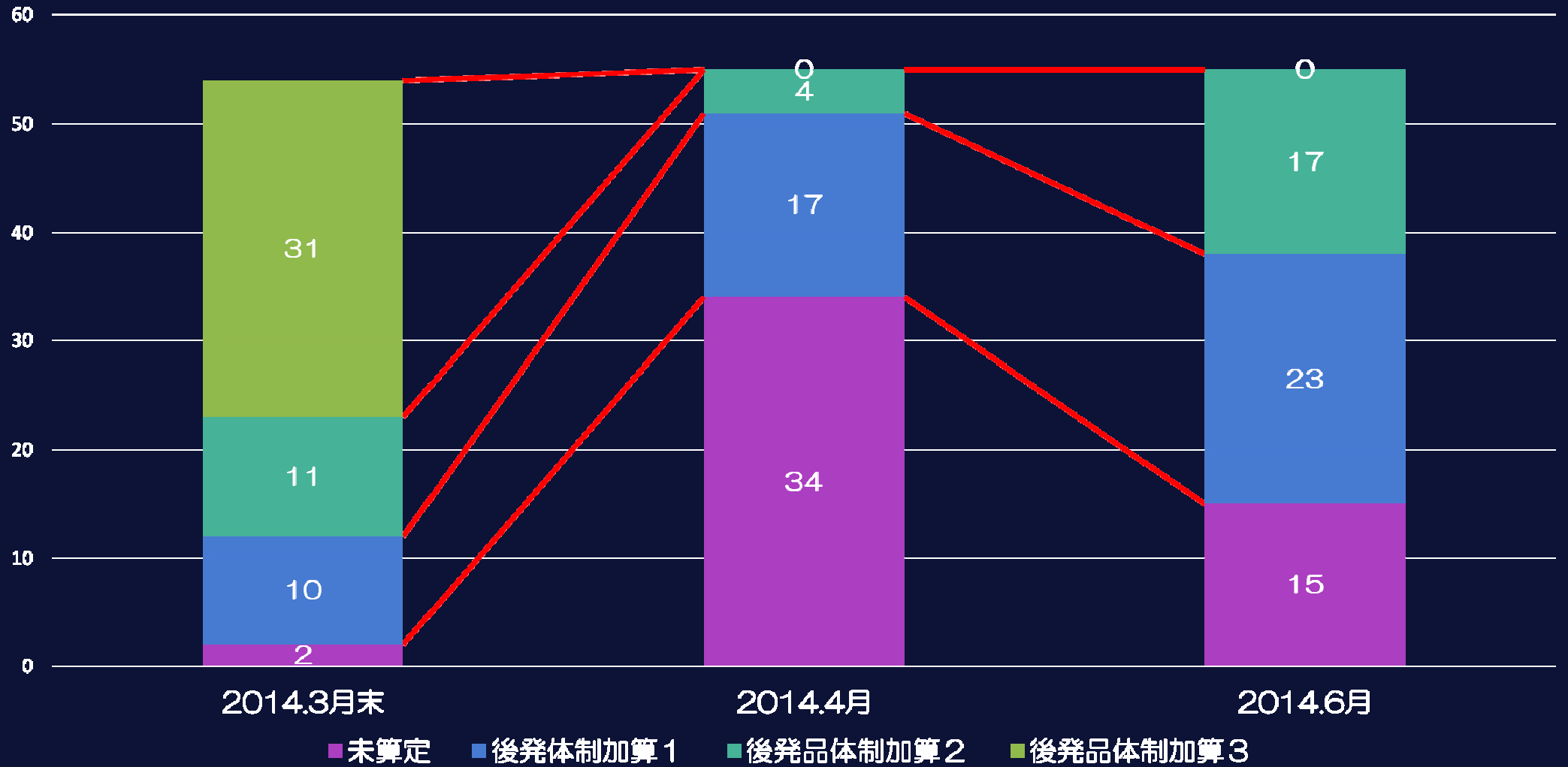
- 2012年から2年間の間に、使用量上位30品目の変更率は著しく増加していた。
- 使用量上位30品目のうち
  - 最も使用量が多い薬剤 → レバミピド錠100mg (60.57%)
  - 最も変更率が高い薬剤 → ニコランジル錠5mg (72.96%)
  - 最も変更率が低い薬剤 → ヘパリン類似物質軟膏 (7.97%)
  - 最も使用量が高いが変更率が30%を下回る薬剤 → ケトプロフェンテープ  
10×14cm (22.77%)
- 使用量上位30品目のうち、後発医薬品が存在しない、あるいは適応等の理由で変更していない品目は4品目

## 2014年4月以降の取り組みについて

- 再度、すべての患者にジェネリックに対する説明及び意思確認を行う
- 様々な薬剤の代替調剤に対応出来るよう、後発医薬品の在庫を充実させる
- 処方日数の短いケースや薬価差が小さい場合においても積極的に代替調剤（声掛け）を行う
- 公費等で自己負担がない患者へも積極的な代替調剤を行う
- 外用薬においても積極的に代替調剤を行う



## 結果②：後発品体制加算算定店舗数の変化



結果②：薬剤全体の後発品変更率の変化

2014年3月以前：54.26%



2014年4月～6月：60.53%

※ 変更率最高A店（総合病院前） 88.51%  
変更率最低B店（小児科前） 33.30%

## 結論

- 使用量が多い薬剤に関して、この2年間で後発品への変更率が著しく増加している。
- 2014年4月以降の積極的な取り組みにより、全体の平均も3ヶ月間で6.27%上昇し、厚生労働省が目的とする60%を早期にクリアすることができた。
- しかし、外用や散剤、液剤については2年間で変更率の上昇は見られるものの、いまだ変更率が低く、それらを多く扱う、小児科・整形・皮膚科領域の薬を在庫する店舗では変更率が低い。

## 課題に対する取り組み

外用薬において、後発品変更時に使用感のデメリットとメリットを説明したうえで**1度使ってもらおう。**

散剤・液剤において、成分だけではなく、矯味剤についても説明し、必要であれば分割調剤を行い、**実際に服用してもらおう。**

体調や心身が不安定な時などは無理に進めると、後発品に対するネガティブイメージがつきやすいのでタイミングを計る。

ご清聴ありがとうございました

(株) 関西メディコ サン薬局  
安田 光